

2019年に凶弾に倒れるまで、アフガニスタンで
千ばつに苦しむ人々のために用水路を建設した
医師・中村哲を追った感動のドキュメンタリー

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

映画

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り・室井 滋 朗読・塚本晋也

写真・映像提供：ベシワール会／PMS
企画・提供：日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会・センター事業団
一般社団法人日本社会連帯機構
製作：日本電波ニュース社 HD／16:9／カラー／47分

上映会

11月9日（日） 9:30～ 受付
10:00～ 上映
つくば国際会議場 中会議室201
(つくば市竹園2-20-3)

定員 100名 参加費 500円

上映（47分）後「おしゃべり会」を開催します。感想をお話しましょう。

お申し込みは、こちらから



お申し込みがなくても
ご参加いただけますが、
会場定員に達した場合、
お申し込みの方を優先
させていただきます。

主 催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
共 催：茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会
後 援：つくば市

【お問い合わせ】

0297-63-2771（ディサービス みんなのおうち ゆう）

医師中村哲の 仕事・働く ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一読めぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」



この映画の上映にあたって

～茨城協同労働推進ネットワークへのお誘い～

雇われるのではなく、働く人がみんなで出資し、一人ひとりの意見を反映して運営を行い、共に働く「協同労働」という働き方を推進する法律「労働者協同組合法」が、2020年12月4日に成立しました。現在全国では、160以上の「労働者協同組合」が設立されています。

本作品は、その労働者協同組合法成立記念作品であり、中村哲氏の取り組みを通じて、真の平和はそこに暮らす人々が主体とならなければ創り出せないことを示しています。

茨城では、この法律が出来る以前から、ワーカーズコープとワーカーズ・コレクティブが、「協同労働」を実践し、地域の課題を解決することをめざしてきました。この二者が協同労働をさらに茨城に広めていきたいと思い、「茨城協同労働推進ネットワーク」の立ち上げを準備しています。

この法律を利用して、地域に必要なことを一緒に考え、仕事として起こし、「こうありたい」と願う暮らしや地域を私たちと共に作っていきませんか。